
INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2009年第2週
(1月5日～1月11日)

- * 2009年1月14日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「不明発しん症」も掲載しています。

平成21(2009)年1月15日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター疫学情報室

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数 2009年2週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)				年累計	全国(診断週)	
		51週	52週	1週	2週		2週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	77	70	7	51	58	283	356
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *							
	鳥インフルエンザ (H5N1) **							
三類	コレラ							
	細菌性赤痢	1					3	3
	腸管出血性大腸菌感染症	2	3		1	1	5	14
	腸チフス							
	パラチフス		1					
四類	E型肝炎							
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1					1
	エキノコックス症				1	1	1	1
	黄熱							
	オウム病							
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症							
	サル痘							
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	つつが虫病	1	2		1	1	5	10
	デング熱				1	1	1	1
	東部ウマ脳炎							
	鳥インフルエンザ (H5N1を除く)							
	ニバウイルス感染症							
	日本紅斑熱						2	2
	日本脳炎							
	発しんチフス							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	ボツリヌス症							
	マラリア	1			1	1	2	3
野兔病								
ライム病								
リッサウイルス感染症								
リフトバレー熱								
類鼻疽								
レジオネラ症	2	1		5	5	11	16	
レプトスピラ症								
ロッキー山紅斑熱								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		51週	52週	1週	2週	年累計	2週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	2	3		5	5	7	11
	ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)				3	3	3	3
	急性脳炎 ***						2	5
	クリプトスポリジウム症							
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1			2	2	1	1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症				1	1	1	1
	後天性免疫不全症候群	11	4		11	11	7	9
	ジアルジア症	1			1	1		
	髄膜炎菌性髄膜炎							1
	先天性風しん症候群							
	梅毒	5	4		2	2	8	8
	破傷風				1	1	1	2
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症						1	1
	風しん		2				1	2
麻しん	3					15	22	
2009/1/14集計								

* 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

** 2008年5月12日から指定された。

*** ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(全数把握対象疾患のコメント)

〈二類感染症〉

結核 51件 肺結核33件、その他の結核11件、肺結核及びその他の結核2件、無症状病原体保有者3件、疑似症患者2件で、推定感染地はすべて国内。年齢は10歳未満2件(うち5歳未満1件)、20歳代4件、30歳代6件、40歳代9件、50歳代4件、60歳代7件、70歳代8件、80歳代7件、90歳代4件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 1件 10歳未満の有症状者で、血清型・毒素型はO157(VT1VT2)であった。

〈四類感染症〉

エキノコックス症 1件 単包条虫で、感染地域は調査中。

つつが虫病 1件 推定感染地は島しょ地域であった。

デング熱 1件 推定感染地はカンボディア、血清型は2型であった。

マラリア 1件 三日熱マラリアで、推定感染地はインドネシアであった。

レジオネラ症 5件 すべて肺炎型で、推定感染地は都内4件、神奈川県1件であった。神奈川県の1件では温泉との関連が疑われている(都内の4件は感染原因不明)。

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 5件 腸管アメーバ症4件、腸管外アメーバ症1件で、推定感染地はすべて国内。推定感染経路はすべて性的接触(同性間3件、異性間2件)であった。

ウイルス性肝炎 3件 すべてB型で、推定感染地はすべて国内、推定感染経路はすべて異性間性的接触であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病 2件 ともに孤発性古典型CJDで、年齢は60歳代と70歳代であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 A群で、壊死軟部組織から菌が分離・同定されている。創傷感染が疑われており、第2病日に死亡している。

後天性免疫不全症候群 11件 無症候性キャリア6件、AIDS 5件で、推定感染地は国内9件、不明2件、推定感染経路は性的接触9件(同性間8件、異性間1件)、不明2件であった。

ジアルジア症 1件 推定感染地はインドで、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。

梅毒 2件 早期顕症梅毒 I 期1件、無症候1件で、推定感染地はともに国内、推定感染経路はともに異性間性的接触であった。

破傷風 1件 患者は40歳代で、美容整形手術創からの感染が疑われている。

定点把握対象疾患 報告数 2009年2週

定点種別	対象疾患	2008/2009年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		51週	52週	1週	2週 (定点当たり)			
小児科	RSウイルス感染症	50	40	6	22	0.15	147	150
	咽頭結膜熱	52	37	9	30	0.20		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	457	340	56	253	1.72		
	感染性胃腸炎	2,678	2,104	310	1,204	8.19		
	水痘	252	289	87	341	2.32		
	手足口病	56	27	4	10	0.07		
	伝染性紅斑	39	29	3	32	0.22		
	突発性発しん	92	65	16	70	0.48		
	百日咳	4	6	3	5	0.03		
	ヘルパンギーナ	13	10	1	2	0.01		
	流行性耳下腺炎	100	97	17	113	0.77		
	不明発しん症 (注1)	16	10	3	7	0.05		
	MCLS(川崎病) (注1)	2	2	0	3	0.02		
インフルエンザ	インフルエンザ (注2)	1,137	1,457	546	2,855	10.02	285	290
眼科	急性出血性結膜炎	3	0	0	0	0.00	37	39
	流行性角結膜炎	16	17	3	11	0.30		
基幹	細菌性髄膜炎 (注3)	0	0	0	0	0.00	23	24
	無菌性髄膜炎	0	0	0	1	0.04		
	マイコプラズマ肺炎	8	12	2	6	0.26		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	2	0	2	0.09		
2009/1/14集計								

(注1) 不明発しん症、MCLS(川崎病) は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。

(注3) 髄膜炎菌性髄膜炎を除く。

風しん、麻しん、成人麻しんは2008年第1週より全数把握対象疾患に変更。

(定点把握対象疾患のコメント)

- ・百日咳の定点当たり報告数は、過去5年平均の同時期と比較して高いレベルにあり、引き続き注意が必要である。
- ・インフルエンザの定点当たり報告数は増加し、過去5年平均の同時期と比較して高いレベルにある。都全体の注意報レベルに達しており、保健所単位でも注意報レベルに達している地域は、11か所(31か所中)であった。今後も増加する可能性があり、引き続き注意が必要である。

(定点医療機関からのコメント)

* インフルエンザに関するコメントは13-14頁にまとめて記載しました。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2009年2週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
～5か月	9			13	11	1				
～11か月	7			79	26			32	1	
1歳	4	6	9	170	68	7	1	33		
2歳		3	9	107	59	1	3	3		2
3歳	1	5	28	113	48		3			
4歳		4	36	89	47		3			
5歳		2	27	65	39		3			
6歳		3	31	51	8		3	1		
7歳		4	22	42	8		6			
8歳		1	22	45	12		4			
9歳		1	11	37	2	1	5			
10～14歳		1	34	122	9		1			
15～19歳			3	39						
20～29歳	1		21	232	4			1	4	
30～39歳										
40～49歳										
50～59歳										
60～69歳										
70～79歳										
80歳以上										
合計	22	30	253	1204	341	10	32	70	5	2
先週比	16	21	197	894	254	6	29	54	2	1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性耳下腺炎	不明発しん症	MCLS(川崎病)	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎
～5か月				11		
～11か月		1	1	48		
1歳	4	1	1	114		
2歳	11			115		
3歳	12			131		
4歳	18			159		
5歳	24	1		132		
6歳	16			110		
7歳	9	2		94		
8歳	8			69		
9歳	1			86		
10～14歳	7			193		
15～19歳				172		
20～29歳	3	2	1	457		1
30～39歳				449		
40～49歳				303		3
50～59歳				124		2
60～69歳				52		5
70～79歳				25		
80歳以上				11		
合計	113	7	3	2855		11
先週比	96	4	3	2309		8

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

全数把握対象疾患 (風しん、麻しん)報告数

【年齢階級別】 2009年2週

	風しん	麻しん
0歳		
1歳		
2歳		
3歳		
4歳		
5歳		
6歳		
7歳		
8歳		
9歳		
10～14歳		
15～19歳		
20～29歳		
30～39歳		
40～49歳		
50～59歳		
60～69歳		
70～79歳		
80歳以上		
合計		

定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2009年2週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				5						
中央区				7	2			2		
みなと	3	4	8	35	2		1	5		1
新宿区	3		7	28	7			1		
文京	1		1	29	4	1	2			
台東	2		3	33	19		1	1		
墨田区	1		2	20	17					
江東区	1	2	9	77	5		3	4		
品川区		3	6	62	8			2		
目黒区		1	2	14	4			1		
大田区	5	4	5	95	21	1	13	6	3	
世田谷		1	3	89	25			1		
渋谷区				29	4			1		
中野区			2	47	10			5		
杉並			10	63	3			3		
池袋			1	6	2	1	1			
北区			1	19	22	1		2		
荒川区			3	7	9			1		
板橋区				24	8					
練馬区			3	39	22		1	3		
足立		1	4	33	14			2		
葛飾区			4	47	15			2		
江戸川	2	3	59	47	18			1		
八王子市	1	6	37	80	10			2		
西多摩			10	43	12	1		4		
南多摩		1	5	16	17	2	2	3	2	
町田	1		38	89	29	1	8	6		
多摩立川				29	5			1		
多摩府中	1		7	32	7			4		
多摩小平	1	2	23	58	16	2		6		1
島しょ		2		2	4			1		
東京都合計	22	30	253	1,204	341	10	32	70	5	2

全数把握対象疾患
(風しん、麻しん)報告数

【保健所別】2009年2週

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田			1	17		
中央区	3			21		2
みなと	3	1		75		
新宿区	1	1		56		2
文京	1			44		2
台東	1			53		
墨田区	4			89		
江東区	8	1		95		
品川区	5			41		
目黒区				12		
大田区	9			147		
世田谷	5			143		
渋谷区	5			42		1
中野区	3	1	1	69		1
杉並	1			59		
池袋				50		
北区	1			61		
荒川区	1			34		
板橋区				110		
練馬区	2			159		
足立	8			144		1
葛飾区	5	1		88		
江戸川	7			172		
八王子市	7	1	1	144		2
西多摩	2			166		
南多摩	1			74		
町田	14	1		134		
多摩立川				129		
多摩府中	2			201		
多摩小平	14			215		
島しょ				11		

東京都合計	113	7	3	2,855	-	11
-------	-----	---	---	-------	---	----

	風しん	麻しん
千代田		
中央区		
みなと		
新宿区		
文京		
台東		
墨田区		
江東区		
品川区		
目黒区		
大田区		
世田谷		
渋谷区		
中野区		
杉並		
池袋		
北区		
荒川区		
板橋区		
練馬区		
足立		
葛飾区		
江戸川		
八王子市		
西多摩		
南多摩		
町田		
多摩立川		
多摩府中		
多摩小平		
島しょ		

東京都合計		
-------	--	--

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2009年2週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				1.25						
中央区				2.33	0.67			0.67		
みなと	0.50	0.67	1.33	5.83	0.33		0.17	0.83		0.17
新宿区	0.50		1.17	4.67	1.17			0.17		
文京	0.33		0.33	9.67	1.33	0.33	0.67			
台東	0.67		1.00	11.00	6.33		0.33	0.33		
墨田区	0.33		0.67	6.67	5.67					
江東区	0.25	0.50	2.25	19.25	1.25		0.75	1.00		
品川区		0.50	1.00	10.33	1.33			0.33		
目黒区		0.33	0.67	4.67	1.33			0.33		
大田区	0.56	0.44	0.56	10.56	2.33	0.11	1.44	0.67	0.33	
世田谷		0.13	0.38	11.13	3.13			0.13		
渋谷区				7.25	1.00			0.25		
中野区			0.33	7.83	1.67			0.83		
杉並			1.67	10.50	0.50			0.50		
池袋			0.33	2.00	0.67	0.33	0.33			
北区			0.25	4.75	5.50	0.25		0.50		
荒川区			1.50	3.50	4.50			0.50		
板橋区				4.80	1.60					
練馬区			0.60	7.80	4.40		0.20	0.60		
足立		0.20	0.80	6.60	2.80			0.40		
葛飾区			1.00	11.75	3.75			0.50		
江戸川	0.40	0.60	11.80	9.40	3.60			0.20		
八王子市	0.25	1.50	9.25	20.00	2.50			0.50		
西多摩										
南多摩		0.25	1.25	4.00	4.25	0.50	0.50	0.75	0.50	
町田	0.25		9.50	22.25	7.25	0.25	2.00	1.50		
多摩立川				4.83	0.83			0.17		
多摩府中	0.10		0.70	3.20	0.70			0.40		
多摩小平	0.17	0.33	3.83	9.67	2.67	0.33		1.00		0.17
島しょ		2.00		2.00	4.00			1.00		

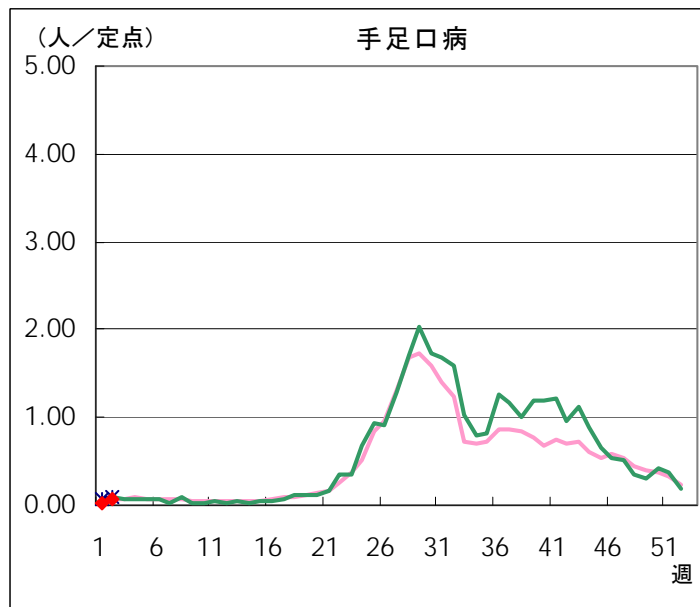
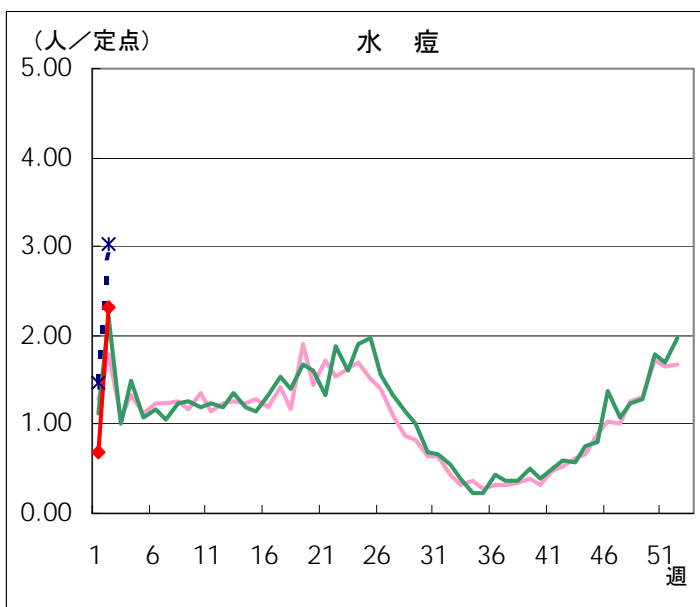
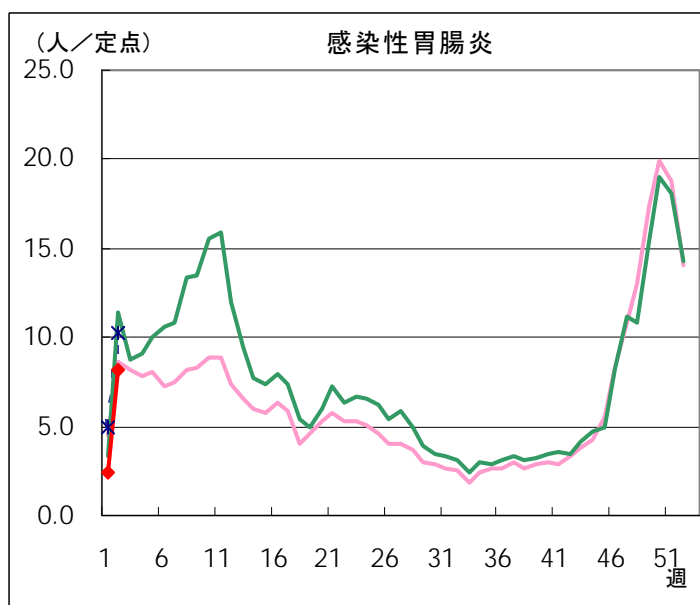
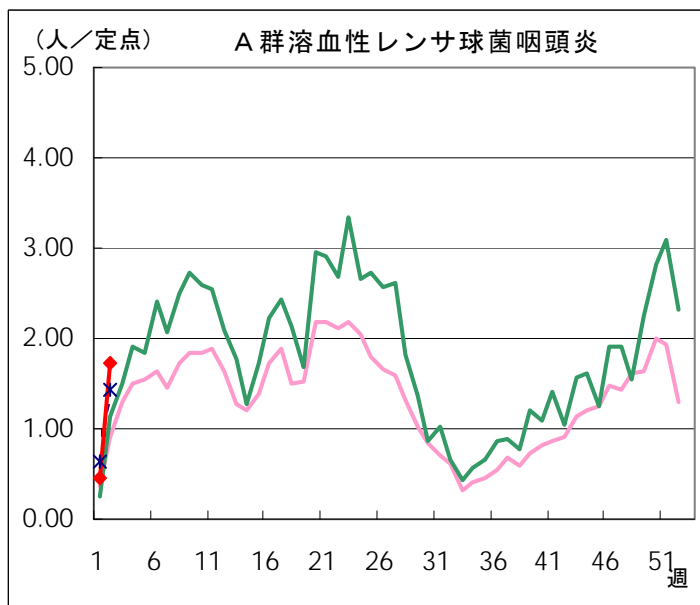
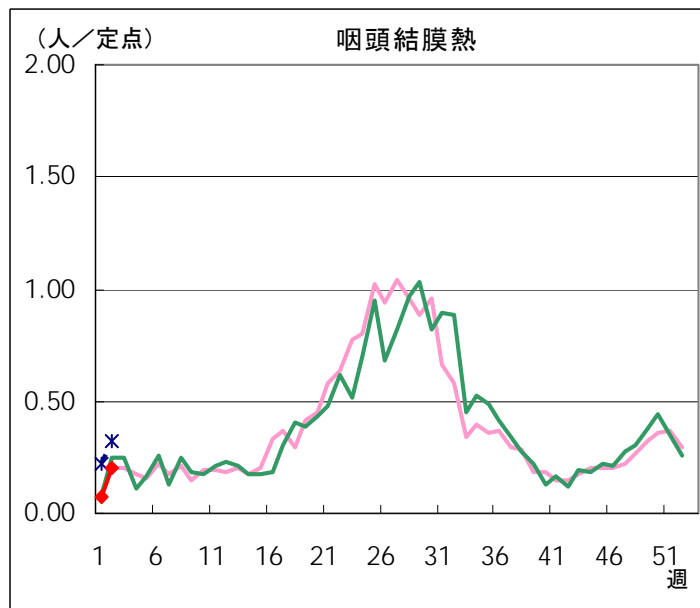
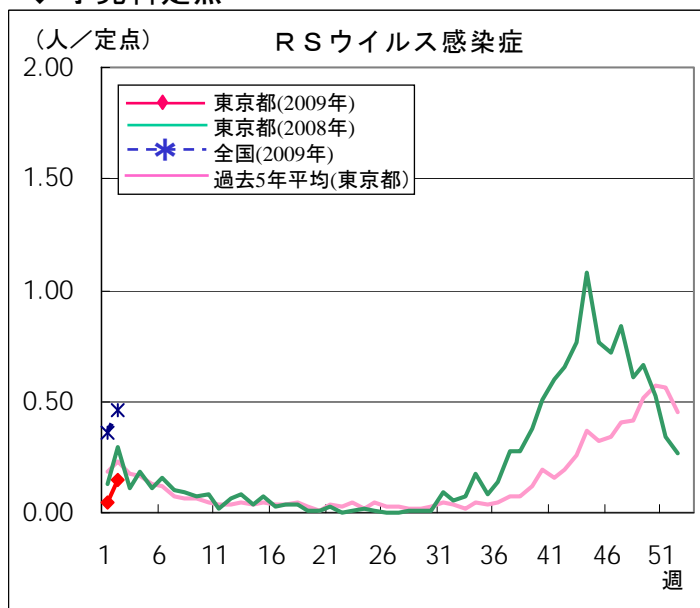
東京都	0.15	0.20	1.72	8.19	2.32	0.07	0.22	0.48	0.03	0.01
-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

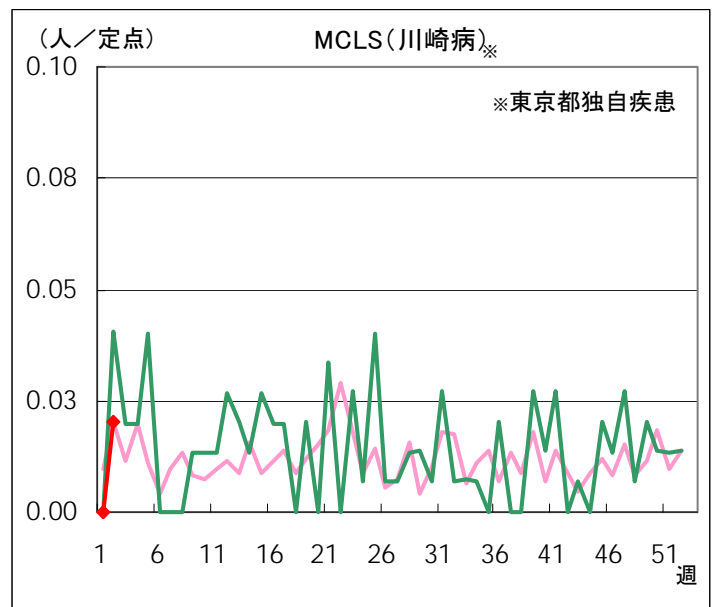
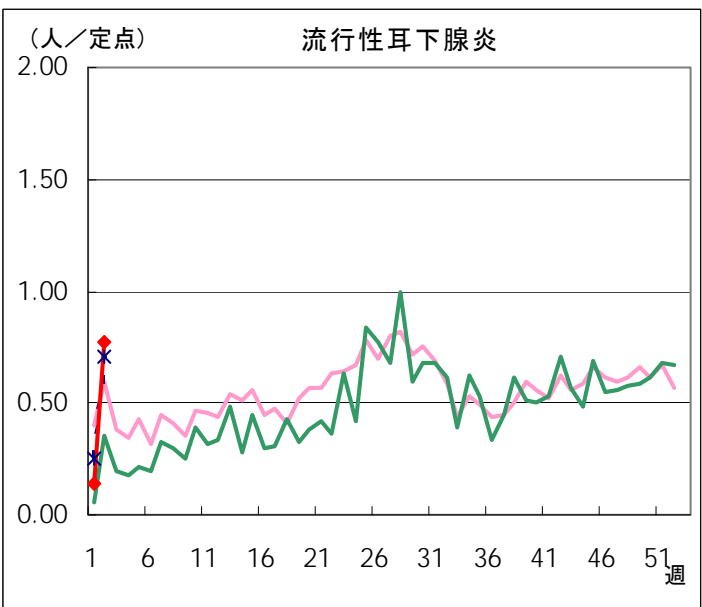
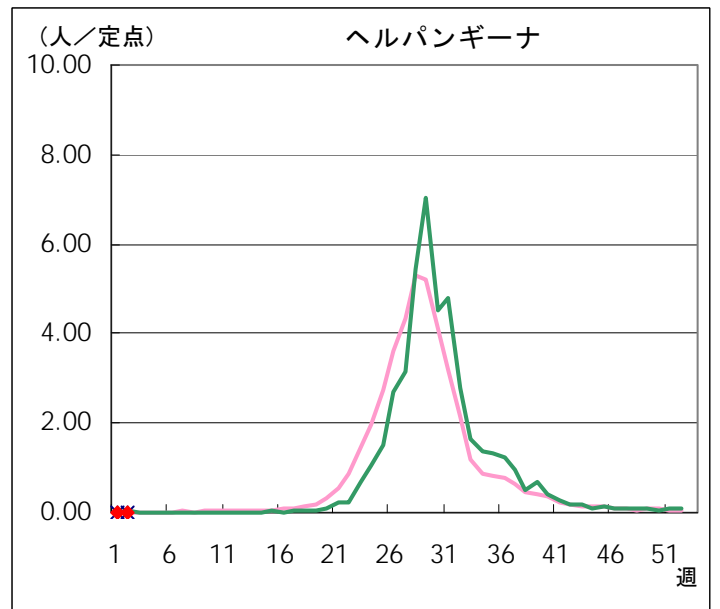
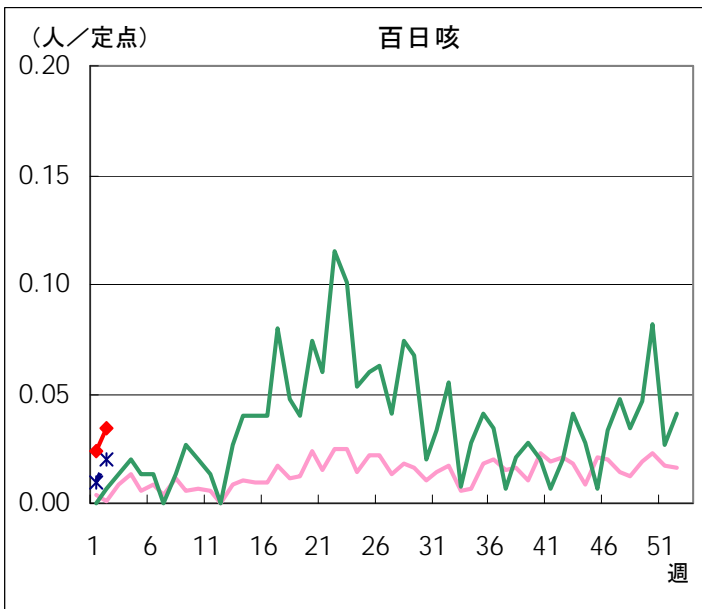
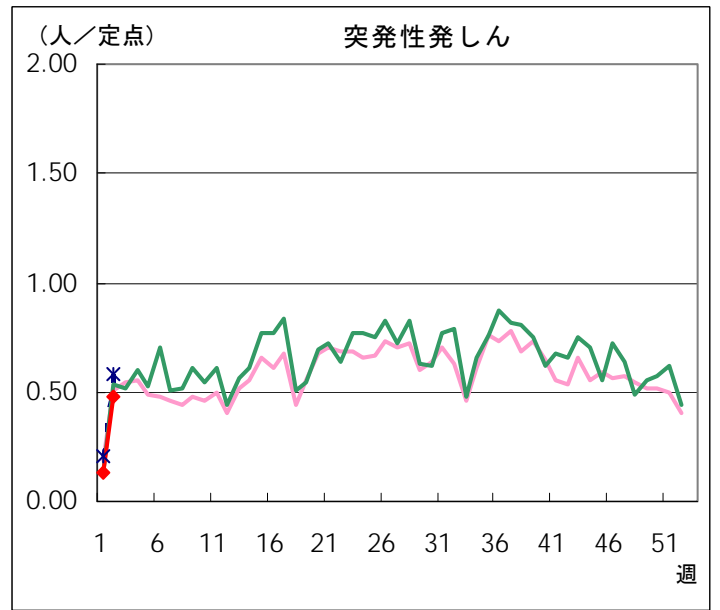
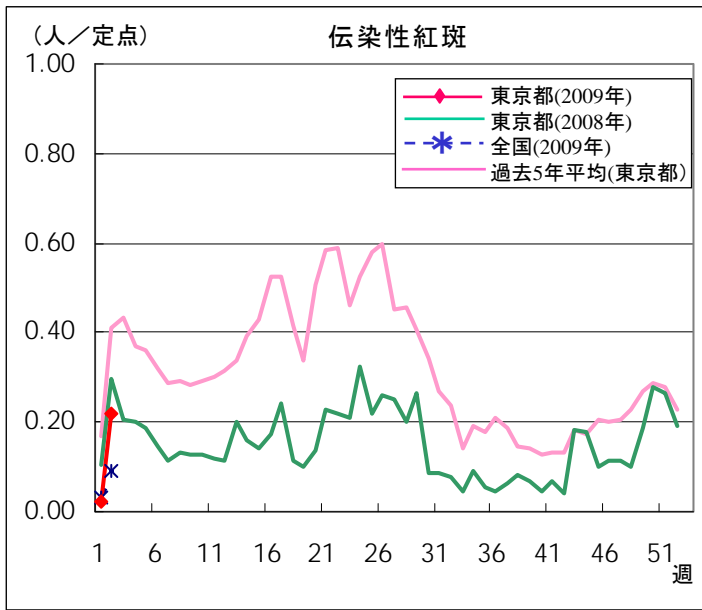
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科	
	流行性 耳下腺炎	不明 発しん症	MCLS (川崎病)	インフルエ ンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎
千代田			0.25	3.40		
中央区	1.00			5.25		2.00
みなと	0.50	0.17		9.38		
新宿区	0.17	0.17		6.22		1.00
文京	0.33			8.80		2.00
台東	0.33			10.60		
墨田区	1.33			14.83		
江東区	2.00	0.25		10.56		
品川区	0.83			4.10		
目黒区				2.00		
大田区	1.00			9.19		
世田谷	0.63			9.53		
渋谷区	1.25			7.00		
中野区	0.50	0.17	0.17	7.67		1.00
杉並	0.17			4.92		
池袋				8.33		
北区	0.25			8.71		
荒川区	0.50			8.50		
板橋区				10.00		
練馬区	0.40			13.25		
足立	1.60			12.00		0.50
葛飾区	1.25	0.25		9.78		
江戸川	1.40			14.33		
八王子市	1.75	0.25	0.25	14.40		1.00
西多摩				18.44		
南多摩	0.25			8.22		
町田	3.50	0.25		14.89		
多摩立川				9.92		
多摩府中	0.20			9.57		
多摩小平	2.33			15.36		
島しょ				5.50		

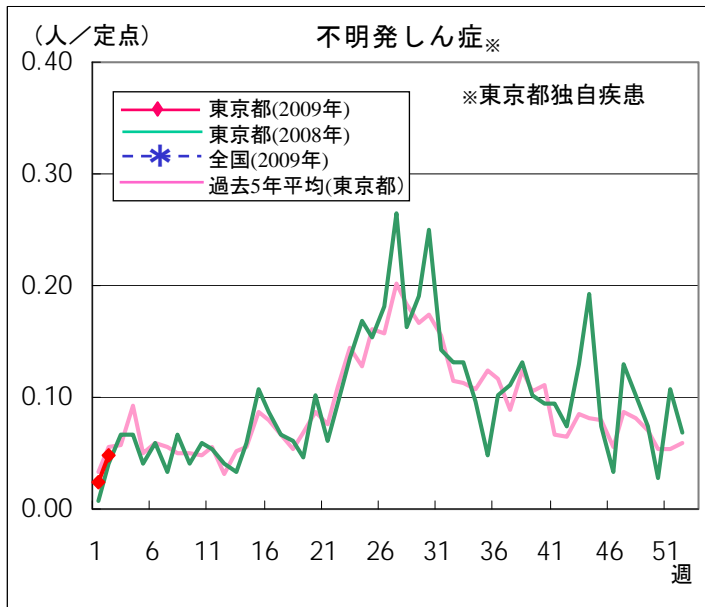
東京都	0.77	0.05	0.02	10.02	-	0.30
-----	------	------	------	-------	---	------

定点把握対象疾患 報告数【週別発生状況】 2009年2週現在

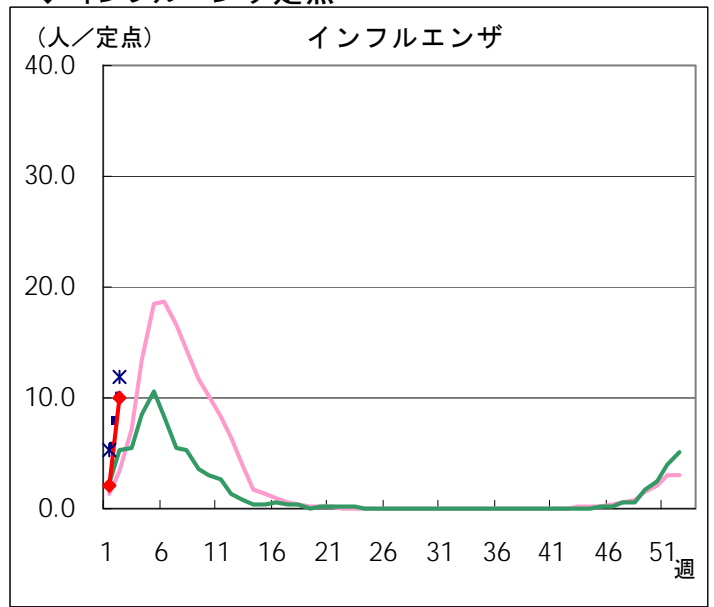
◆ 小児科定点



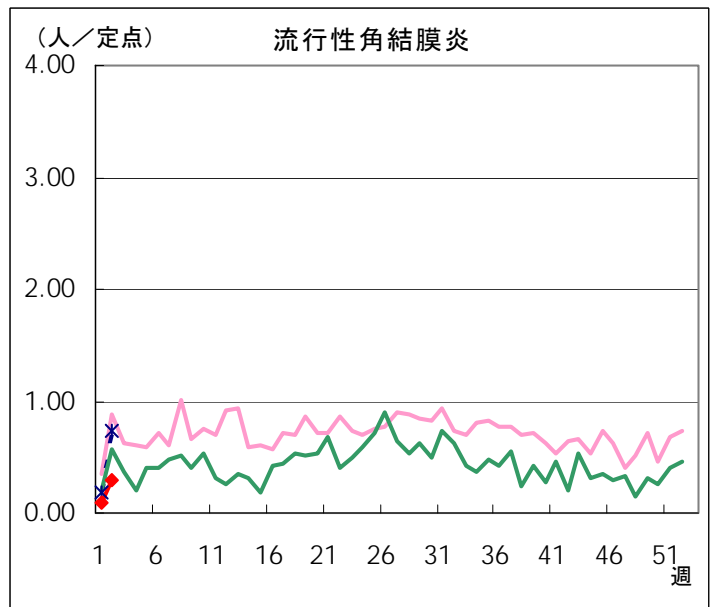
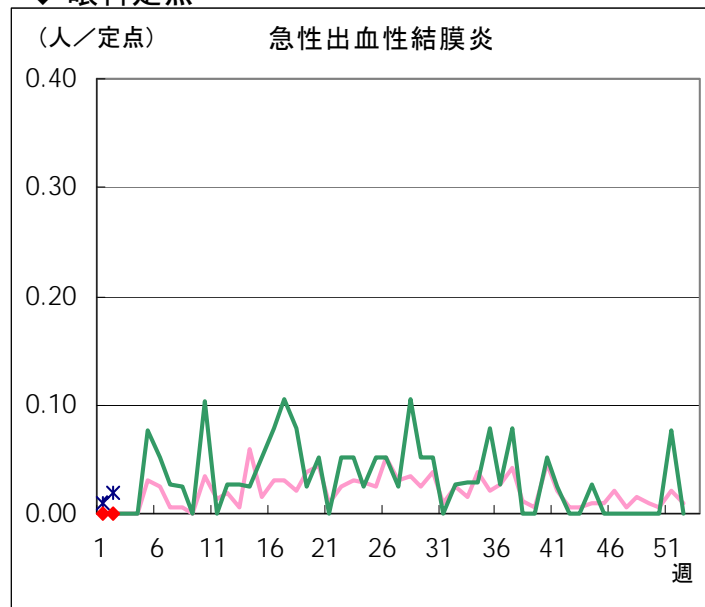




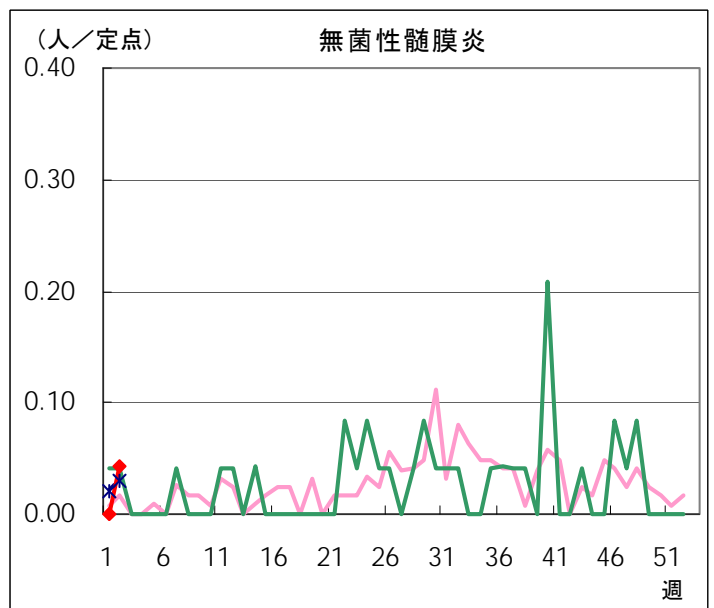
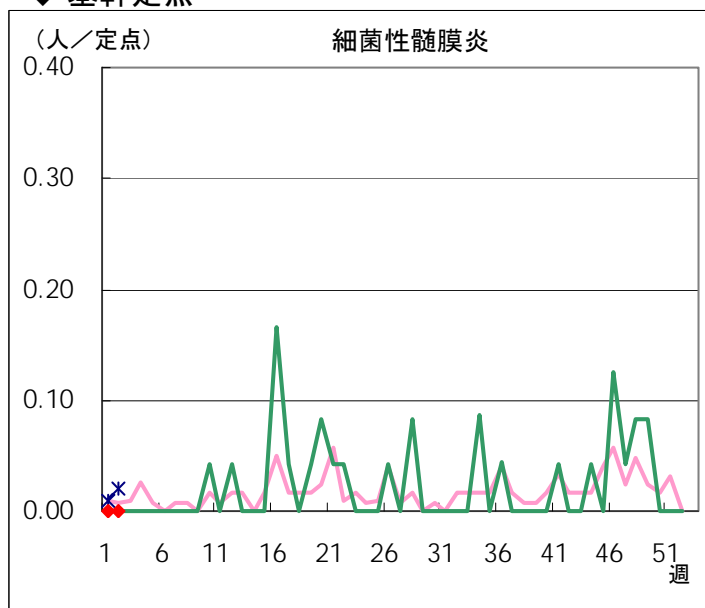
◆ インフルエンザ定点

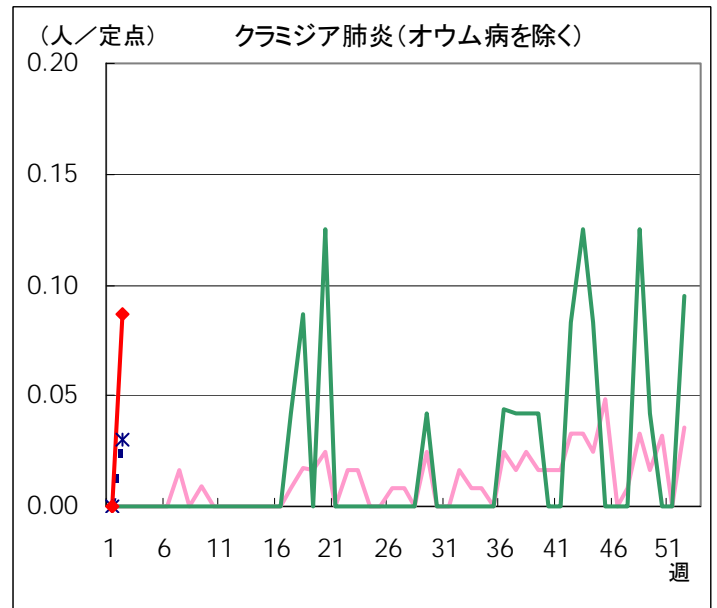
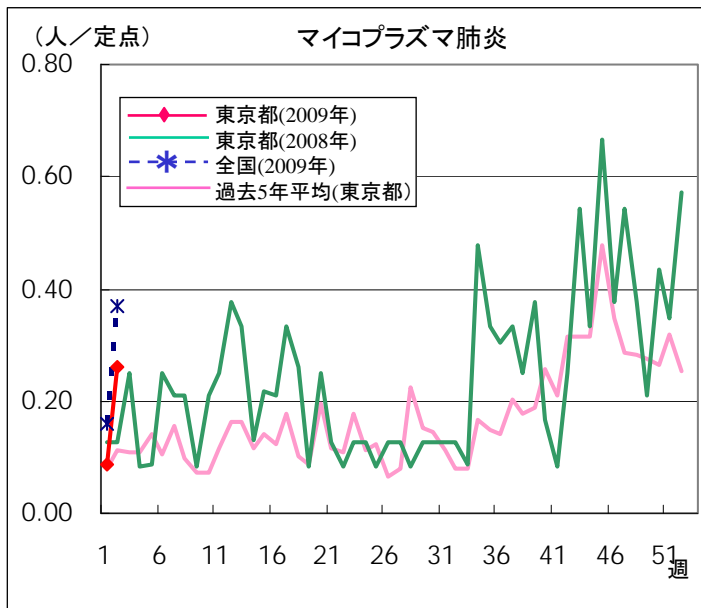


◆ 眼科定点

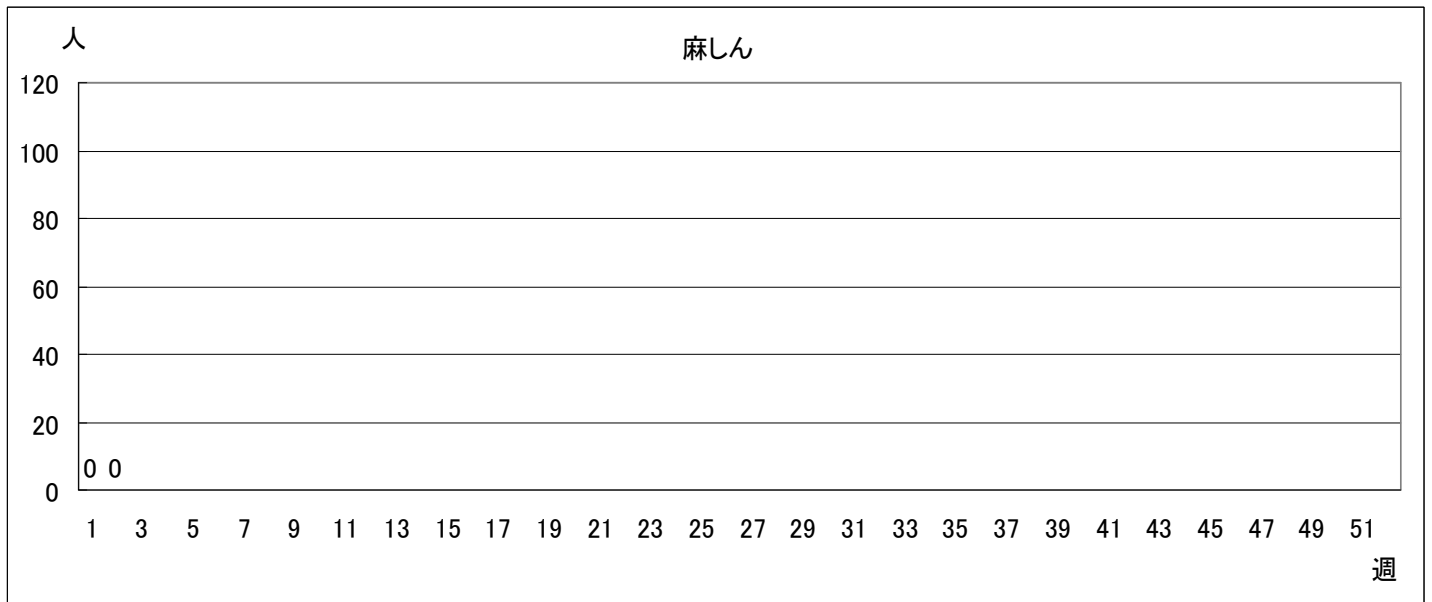


◆ 基幹定点





全数把握対象疾患 報告数【週別保健所受理状況】 2009年2週現在



定点医療機関からのインフルエンザに関するコメント

各定点医療機関から、迅速診断キットを用いた検査の結果等に関わるコメントをいただきましたので、コメントのあった医療機関ごとに下表にまとめました。

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
みなと	2		
	9		
	11	2	
新宿区	10		
	9		
台東	24	1	1歳児B型 他A型。
	18	1	
	8		
品川区	12		
目黒区	5		
	4		
	2		
大田区	19	1	2歳児B型、その他全てA型。
	4		
	2		
	10		
	6		
	14	1	
	14		
6			
世田谷区	2		7歳、12歳は兄弟、A型。小学校で感染。 3歳児は、兄弟(8歳、他院で受診)より感染。
	6	2	
	3		
	10		
	2		
渋谷区	2		
	5		
	15		急に患者が増加。すべてA型。
中野区	4		
	2		インフルエンザA型2人。予防接種はしていませんでした。
	18		
	8		
	2		
	8		
	5		
	16		
6			

管轄保健所名	インフルエンザ 迅速診断結果		定点医療機関からのコメント
	A	B	
池袋	22		
多摩府中	3		
西多摩	10		
	40	1	
	4		
			11ヶ月児:A型(±)、B型(±)
南多摩	25		
	9		
	10		
	11		
	9		
	15		
多摩立川	7		全員A型、8歳児・39歳予防接種済。
	4		
	7		
	12		10名A型、2名症状よりA型。
	13		
多摩小平	25		
	6		A型6名、不明3名。
	14		
	26		
	24	1	
	11		
	28		
	3		
25			
八王子市	8		
	20		
	1		
	4		
	11	1	
	12		
	23	1	11才児はB型、他は全てA型です。
	25		

病原体検査情報

◇定点(病原体)医療機関からの搬入検体

*原則として検体採取日の順に掲載しています。

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
12/8	手足口病	4	咽頭拭い液	アデノウイルス、エンテロウイルス	遺伝子
12/16	溶連菌感染症	7	咽頭拭い液	A群溶連菌(T-4型)	分離同定 血清型
12/16	溶連菌感染症	5	咽頭拭い液	MSSA(コアグララーゼV型)	
12/17	突発性血小板減少性紫斑病	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	遺伝子
12/17	急性脳症	1	糞便	ヒトヘルペスウイルス6型	
12/18	West症候群、突発性発しん	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型	
12/19	流行性耳下腺炎	8	咽頭拭い液	ライノウイルス、ムンプスウイルス EBウイルス	
12/19	インフルエンザ	5	鼻汁	エンテロウイルス インフルエンザウイルスAH1型	
12/19	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
12/19	流行性耳下腺炎	12	咽頭拭い液	ムンプスウイルス、EBウイルス	
12/20	流行性耳下腺炎	7	咽頭拭い液	ムンプスウイルス	
12/20	不明発しん	1	咽頭拭い液	エンテロウイルス	
12/20	インフルエンザ	2	鼻汁	アデノウイルス、エンテロウイルス インフルエンザウイルスAH3型	
12/21	髄膜炎	16D	髄液	エンテロウイルス	
12/21	急性咽頭炎	4	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型 アデノウイルス	
12/22	流行性耳下腺炎	10	咽頭拭い液	アデノウイルス、ムンプスウイルス EBウイルス	
12/22	感染性胃腸炎	1	糞便	アデノウイルス、エンテロウイルス、 ノロウイルス	
12/22	インフルエンザ	3	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
12/22	インフルエンザ	3	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
12/22	急性気管支炎	1	咽頭拭い液	RSウイルス	
12/22	突発性発しん	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス6型、7型	

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
12/22	胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス	遺伝子
12/23	発熱	0	髄液	エンテロウイルス	
12/24	インフルエンザ	13	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
12/24	無菌性髄膜炎	30	髄液	エンテロウイルス	
			尿		
12/24	咽頭結膜熱、インフルエンザ	3	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
12/25	感染性胃腸炎	11M	糞便	A群ロタウイルス	抗原
				アデノウイルス	
12/25	インフルエンザ	6	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	遺伝子
12/25	インフルエンザ	4	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
12/25	胃腸炎、けいれん	1	糞便	ノロウイルス	
12/26	インフルエンザ	30	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
12/26	不明発しん症	2	咽頭拭い液	アデノウイルス サイトメガロウイルス	
12/26	不明発しん症	4	咽頭拭い液	パルボウイルスB19	
12/29	急性細気管支炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
12/19	インフルエンザ	55	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
12/20	インフルエンザ	4	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH3型	
12/24	インフルエンザ	17	咽頭拭い液	インフルエンザウイルスAH1型	
記載無し	好中球減少症、急性胃腸炎	1	糞便	ノロウイルス	
記載無し	上気道炎、熱性けいれん	9M	咽頭拭い液	ライノウイルス	
記載無し	上気道炎、発熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	

病原体検査情報 【検出病原体別・週別】

検出病原体		2008年							
		45週	46週	47週	48週	49週	50週	51週	52週
ウイルス	アデノウイルス	5	8	5	5	9	8	9	9
	ライノウイルス	6	6		2	5		10	2
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群								
	コクサッキーウイルスB群								
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71								
	その他のエンテロウイルス	8	8	14	9	9	11	8	10
	単純ヘルペスウイルス	1	1				1	1	
	水痘・帯状疱疹ウイルス						1		
	ヘルペスウイルス6/7	4	1	5	3	3	1	7	5
	EBウイルス	2	2	3	3	3	1	2	3
	サイトメガロウイルス				1				1
	ムンプスウイルス	4	4	6	2		1	1	4
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19			1	1			1	1
	RSウイルス	10	11	9	6	7	4	7	1
	ノロウイルス		6	6	3	4	1	11	4
	ロタウイルス								1
	インフルエンザウイルスAH1			3	1		4	8	6
	インフルエンザウイルスAH3		2	2	2	2	1	2	7
インフルエンザウイルスB	1								
デングウイルス			1						
その他のウイルス							1		
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌	1	2				1		
	溶血性レンサ球菌	2	1		5	1		1	1
	その他の細菌		1						1
その他の病原体			1	1	1				

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2008年45週～52週

臨床診断名 検出病原体	インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ヘル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数	60	45	73	79	47	4	13	9	5	10	1	26	20	7			132	
ウイルス	アデノウイルス	1	15	13	2	2		4	1	2		2	5				11	
	ライノウイルス	1	5	9	5					1		3	4				3	
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群																	
	コクサッキーウイルスB群																	
	エコーウイルス																	
	エンテロウイルス71																	
	その他のエンテロウイルス	3	7	8	15	8	2		1	4	7		8	1	1			12
	単純ヘルペスウイルス					2												2
	水痘・帯状疱疹しんウイルス														1			
	ヘルペスウイルス6/7		1	1							2		6		2			17
	EBウイルス									1	1		6	9				2
	サイトメガロウイルス												1	1				
	ムンプスウイルス					3								16	3			
	麻しんウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19											1	2					1
	RSウイルス		8	43	2													2
	ノロウイルス		2	1	32													
	ロタウイルス				1													
	インフルエンザウイルスAH1	18	3															1
	インフルエンザウイルスAH3	18																
	インフルエンザウイルスB	1																
デングウイルス																	1	
その他のウイルス				1														
細菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																4	
	溶血性レンサ球菌							11										
その他の細菌							1										1	
その他の病原体			3															

感染症豆知識

不明発しん症

感染症発生動向調査の定点把握対象疾患として、国が定めているもののほかに東京都では独自に4疾患を定めており、その一つが小児科定点から報告される不明発しん症である。報告基準は「感染性のもと思われるが明確な診断をつけ難い発しん症。除外診断による」としており、元々はエンテロウイルスによる夏かぜ発しん症を想定したものであるが、新しい発しん性感染症の出現にも対応した項目である。

定点当たり報告数の推移をみると、夏季に増加する傾向は認められるが、エンテロウイルスが主因である手足口病のような明確なピークは形成しない。2007 年中に東京都健康安全研究センターに搬入された本症患者検体 121 件のうち 109 件からウイルス遺伝子が検出され、ヒトヘルペスウイルス(うちヒトヘルペスウイルス6型が 39 件)49 件、ライノウイルスとアデノウイルスが各 13 件、エンテロウイルスが 10 件等であった。多様なウイルスが本症の原因となっていること、特に、季節変動をほとんど示さない突発性発しんの原因でもあるヒトヘルペスウイルス6型の割合が高いことが、明確なピークを形成しない背景となっていると考えられる。

なお、2007 年には麻しんウイルス遺伝子検出検体が例年より多く、7 件含まれていた。不明発しん症患者検体として搬入されたことは、臨床診断が難しいとされる修飾麻しんの増加が示唆される。毎週木曜日発行の東京都感染症週報では、病原体検査情報が臨床診断名別でも掲載されており、今後も新たな傾向が出てきた際には参考になると思われる。

(文責・東京都健康安全研究センター微生物部疫学情報室副参事研究員 阿保満)